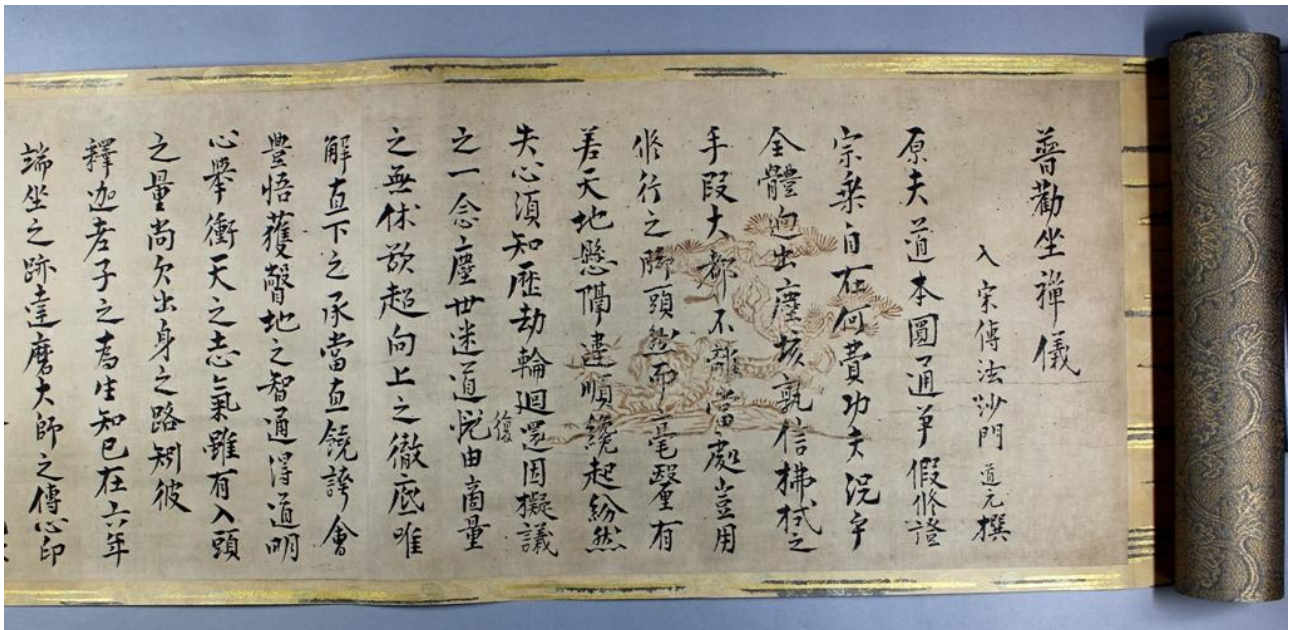


国宝 普勸坐禅儀について

曹洞宗の開祖である道元禪師が、宋での修業を終えて帰国した嘉禄3年（1227）に、禅の奥儀を選んで記述した書。永平寺に伝わる本巻は、帰国から6年後の天福元年（1233）に禪師が自ら書いたものである。添付の寄進状と外箱の銘から、嘉永5年（1852）頃に古筆了伴によって永平寺に寄進されたことがわかっている。寸法は縦28.8cm、全長318.7cm。昭和27年3月29日に国宝に指定。



1階県庁ホール展示場所

